

日韓トンネル通信

編集 特定非営利活動法人
日韓トンネル研究会
発行 (株)国際経済総合研究所

本部事務局：東京都港区麻布台1-1-20
〒106-0041 麻布台ユニハウス513
TEL 03-3589-4188 FAX 03-5570-1634
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：0120-09-1631

(報告)九州支部の支部長に吉田信夫氏が就任しました。

去る8月2日、九州支部の第2回通常総会が開催され、吉田信夫氏(福岡大学名誉教授)が支部長に就任しました。吉田氏は、九州大学



大学院修士課程終了後、運輸省港湾局を経て福岡大学工学部教授となり交通工学や土質工学などに関する研究

を積み重ね、平成8年には運輸大臣より「交通文化賞」を授与されました。現在、各種学会および地域の交通政策に関する各種委員会にて活動中です。当会では九州支部の副支部長でした。

(報告)2005世界道路交通博覧会(韓国開催)で日韓トンネルを展示しました。

韓国ソウル近傍の高陽市で7月7～10日にかけて開催された「2005世界道路交通博覧会」で、当会は日韓トンネルの展示および論文発表を行いました。この展示会は、韓国道路交通協会などが主催で『先端技術!安全で便利な道路交通』をテーマに、韓国内外の176社が403ブースで道路建設や維持管理などに関する展示を行うもので、当会は



2ブース(6×3m)を使用した。また、併設会場で2日間にわたり開催された「第1回世界道路交通会議」で、当会は高橋彦治会長の論文『日韓トンネル計画について』を、山岡建雄常任理事が代読しました。

ブースでの主な展示物は、①日韓トンネル完成予想図(曲面パネル)、②テレビによる日韓トンネル関連情報の放映、③パソコンによる計画説明、④パンフレット(日本語、韓国語、英語)配布などです。

4日間の会期中の会ブース来訪者はおおよそ1000人です。日韓トンネルのパンフレット配布数は、韓国語版850部、日本語版100部、英語版100部でした。

韓国での大規模展示会への出展は3年連続となるが、今回の展示会では、昨年の展示会まで多く見受けられた日韓トンネルに対する否定的な意見や質問は減り、日韓トンネル計画の可能性や進め方についての質問が増えま

した。主な質問は、①韓国側のどこの組織と共同研究をしているのか？②建設段階に入るのはいつか？③どんな調査をしているのか？④トンネル内は何が走るのか？⑤経済的採算性はどうか？などでした。

(報 告)九州支部の第2回通常総会が行われました。

九州支部の第2回通常総会が8月2日、福岡ガーデンパレスで行われました。来賓として出席した高橋彦治め会長、濱建介常任理事、大塚茂常任理事の挨拶の後、兼重修支部長が議長に選手され議事に入りました。平成16年度の事業計画、収支決算報告、平成17年度の事業計画、予算案などを審議し承認されました。役員の新退任ならびに変更を審議し、吉田信夫副支部長が支部長に就任することになりました。また兼重修支部長は当会九州支部の顧問に就任しました。

(報 告)ホームページを開設しました。

当会のホームページを開設しました。アドレスは以下のとおりです。



www.jk-tunnel.or.jp

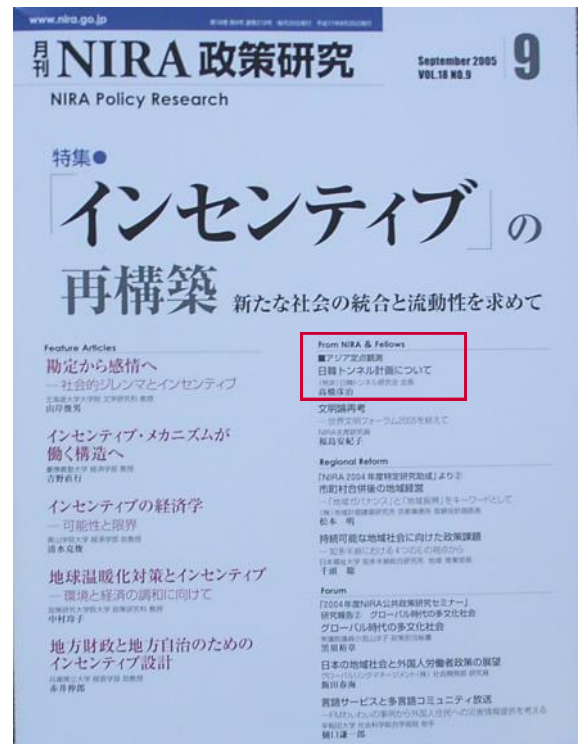
(記事紹介) 日韓トンネル計画に関連する

新聞・雑誌掲載記事を紹介します。今回は次の1点です。

・月間NIRA政策研究 2005年9月号

月間NIRA政策研究 NIRAワーキングレポート (P.41) 掲載「日韓トンネル計画について」特定非営利活動法人日韓トンネル研究会 高橋彦治 会長の論文 (全6頁) より抜粋

日韓トンネル計画の構想は、発展増大し続



ける空路、海上輸送を補完しつつ、まず、日韓両国を結ぶ安全な陸上一貫物流システムの主要なハブを建設し、加えてエネルギー輸送ラインや情報ハイウエーとして整備し、やがて北朝鮮、中国に通じる国際的物流・情報ハイウエーにと発展させ、さらに将来的にはアジア全域やヨーロッパとも連結して、ユーラシア大陸横断の大動脈の心臓部を形成し、東西を結ぶ「平和の掛け橋」を構築しようとするマクロエンジニアリング構想に基づく、21世紀における壮大な技術的挑戦である。